

平成26年11月27日
中央教育審議会
初等中等教育分科会
資料2



ESDに関するユネスコ世界会議について

平成26年11月27日



文部科学省国際統括官付 靱井圭子



持続可能な開発のための教育(ESD) について

1. 「ESD(持続可能な開発のための教育)」とは？

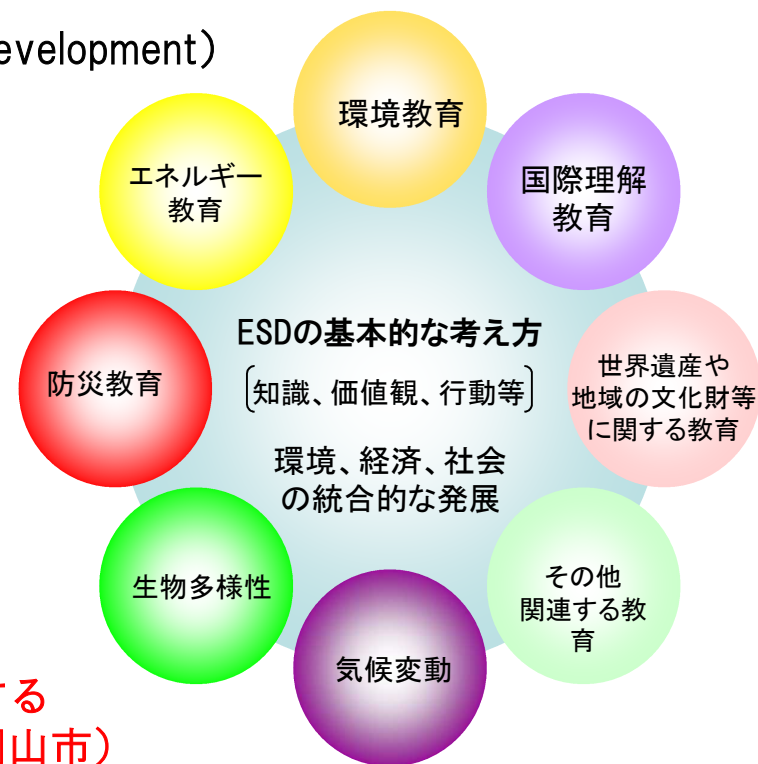
ESD=Education for Sustainable Developmentの略。

持続可能な社会の担い手を育むため、地球規模の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分で考え行動を起こす力を身に付けるための教育。

2. 「国連ESDの10年」(UNDESD)について

(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 国連決議（第57回総会）
 - ・ 2005～2014年の10年
 - ・ ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定
- 2009年 ESD世界会議（ボン）
 - ・ ボン宣言の採択
- 2014年 持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議（愛知県・名古屋市／岡山市）



「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催概要

1. 参加国・閣僚者数等

- 1) 愛知・名古屋(11月10日(月)～12日(水))
 - 正式参加者: 150か国・地域 1,000名以上
 - 閣僚級: 76名(大臣:52名、その他:24名)
 - 併催イベント: 約900名
- 2) 岡山(11月4日(火)～8日(土))
 - ステークホルダー会合参加者: 約1,800名
(Studentフォーラム、教員フォーラム、ユネスコスクール全国大会、ユース・コンファレンス等)

2. 世界会議における成果

- 1) 採択された各種宣言
 - ①「あいち・なごや宣言」
 - ②「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」
 - ③「ユース・ステートメント」
 - ④「ユネスコスクール世界大会Student(高校生)フォーラム共同宣言」
- 2) 「国連ESDの10年」の後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム」(GAP)開始の正式発表
- 3) 「ユネスコ／日本ESD賞」創設の正式発表
GAPの具体的な実施を促進するため、ESDへの若者の参加の支援、ESDへの地域コミュニティの参加の促進などGAPの5つの優先行動分野のうち、一つ以上の分野で活発に活動している個人又は団体を表彰する。(1件当たり5万米ドル。毎年3件を表彰。)



開会全体会合



ハイレベル円卓会議

DESDの取組から明らかになったESDの推進のための知見 (出典:ユネスコDESD最終レポート)

持続可能な開発を実現するためのESD

1. 持続可能性の問題に対処する教育制度
2. 持続可能な開発のアジェンダと教育アジェンダの統合

ステークホルダーのESDへの関与の重要性

3. 政策的リーダーシップの重要性
4. 特に有効であるマルチステークホルダーのパートナーシップ
5. 地域のコミットメントの発展

教授法の革新を喚起するESD

6. ESDの実践を支援する機関包括型アプローチ
7. 学習者主導の双方向の教授法を促進するESD

教育の全てのレベル及び分野に広がるESD

8. 公教育へのESDの導入
9. ノンフォーマル及びインフォーマルなESDの拡大
10. 持続可能な開発を前進させる技術・職業技術教育及び研修

1 これまでの評価

1. 国連ESDの10年に多くの実質的な優れた取組が出たことを祝す。
2. ユネスコ／日本ESD賞の創設を評価する。

2 今後に向けた呼びかけ

【全てのステークホルダーへ】

- ・批判的思考、分析的問題解決、不確実なことに直面した際の決断、国際的な課題がつながっていること等の理解等に必要な知識、スキル、態度等を発達させるESDの可能性を重視する。
- ・フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな環境におけるGAP開始のモメンタムを構築、維持。
- ・GAPの五つの優先行動分野におけるモニタリング、評価の方法を強化。
- ・ユースをキーとなるステークホルダーとして巻き込む。

【ユネスコ加盟国政府へ】

- ・教育政策とカリキュラムのESDのゴール達成度を評価し、教育、訓練、職能開発へESDを導入。
- ・GAPの五つの優先行動分野に沿った政策を行動に移すため、実質的資源を配分、集結。
- ・ユネスコ世界会議の成果をポスト2015年アジェンダへ反映。

【ユネスコ事務局長へ】

- ・ESDのグローバルリーダーシップを提供。
- ・ユネスコスクール等のネットワークを活用し、ESD実施のための新たなモメンタムを構築。
- ・ESDの資金を含む適切な方策を保証する重要性を支援。

教育に関する議論の結果

今後、ユネスコ加盟国政府に求められる取組(あいち・なごや宣言 パラ15)

・教育の目的、教育を支える価値をレビューし、教育政策とカリキュラムがどの程度ESDのゴールを達成しているかを評価すること。

「10年間のESDの取組で、より幅広い教育のビジョンが根付き、質の高い教育に新しい意義付けをした。さらに、教育の目的、政策、実践、倫理、価値の強化が必要。」

・教育、訓練及び持続可能な開発政策へのESDの統合を強化すること。

「これまでは分かっていることを教えるのが教育だったが、これからは分かっていることを教えるのが不確実な社会に生きる子ども達を育てること。」

・教員や他の教育者の教育、訓練、職能開発が十分にESDを取り入れることを確保すること。

「何をどう教えるかではなく、なぜ教えるのかを未来に向けて考える。」

・システム全体としての全体的アプローチ、マルチステークホルダーの協力、多様な人々のパートナーシップに特別な注意を払うこと。

「10年間のESDの成果をさらに拡大し、パラダイム転換を図る必要がある。」